

教職員の働き方改革の実現について

1 主な平成30年度の取組状況

<p>方向性1 校務支援システムの活用推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 校務支援システムによる出退勤管理の試行 (H31. 1月頃の試行を予定) 事務事業の削減 出席簿、通信表、生徒指導要録、進路資料等の一元管理 インターネットによる資料検索及びデジタル教科書の活用 調査・統計への回答の簡略化 	<p>○活用推進のための支援 (予算額 178,892千円)</p> <p>(1) プログラムの修正等 ア 校務支援ソフトの速度改善 イ 最新の成長曲線作成に適応 (養護教諭) ウ デジタル校務の起動画面の改善 エ 学校代表メールボックスの作成</p> <p>(2) ICT支援員による校内研修 (10校に1人配置) ア 成績処理研修 (平成30年5月～6月) イ 入試用調査書と指導要録処理研修 ウ 要請訪問など 9月までに13件 (校長・教頭会 支部教頭・養護教諭会等)</p> <p>○活用推進委員会 (校長・教頭等) を実施 ・ソフトウェアのカスタマイズや修正を実施 ・教職員のニーズに対応</p>																				
<p>方向性2 静岡市型部活動システムの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 静岡市立中学校部活動ガイドラインの推進 外部人材の活用 外部顧問・・・生徒を大会等の引率・指導可 外部指導員・・・主に技術指導補助 静岡市部活動応援隊活動の実施 体育的・文化的活動の場を地域に提供 	<p>○静岡市立中学校部活動ガイドライン 43校中36校が平日3日、土日どちらか1日で実施。</p> <table border="1"> <tr> <td>○静岡市部活動応援隊</td> <td colspan="2">○外部人材の活用状況</td> </tr> <tr> <td>参加企業・事業所 59社</td> <td>年度</td> <td>2017</td> <td>2018</td> </tr> <tr> <td>実施企業・事業所 38社</td> <td>外部顧問</td> <td>5名</td> <td>17名</td> </tr> <tr> <td>全国的にも注目される取組 ・新聞8件、TV2件、 本・雑誌各1件</td> <td>外部指導員</td> <td>140名</td> <td>123名</td> </tr> </table> <p>(予算額 43,933千円)</p>	○静岡市部活動応援隊	○外部人材の活用状況		参加企業・事業所 59社	年度	2017	2018	実施企業・事業所 38社	外部顧問	5名	17名	全国的にも注目される取組 ・新聞8件、TV2件、 本・雑誌各1件	外部指導員	140名	123名					
○静岡市部活動応援隊	○外部人材の活用状況																				
参加企業・事業所 59社	年度	2017	2018																		
実施企業・事業所 38社	外部顧問	5名	17名																		
全国的にも注目される取組 ・新聞8件、TV2件、 本・雑誌各1件	外部指導員	140名	123名																		
<p>方向性3 教職員の意識改革と時間管理の徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> 日直を置かなくてもよい期間の設定 静岡市一斉に毎年、8月の第3週 (H30～) 管理職へのマネジメント研修 校長・教頭研修会で実施 業務改善に関する人事評価 教職員の人事評価自己目標シートに「働き方改革」欄を設定 (H30～) 働き方改革に関する学校評価 (H30～) 学校評価書に「働き方改革」欄を設定 	<p>○日直を置かなくてもよい期間の実施</p> <table border="1"> <tr> <td>実施日数</td> <td>2日間</td> <td>3日間</td> <td>4日間</td> <td>5日間</td> </tr> <tr> <td>小学校</td> <td>2校</td> <td>13校</td> <td>1校</td> <td>70校</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>2校</td> <td>7校</td> <td>0校</td> <td>34校</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>4校</td> <td>20校</td> <td>1校</td> <td>104校</td> </tr> </table> <p>○管理職へのマネジメント研修 (7回) ○教職員の人事評価自己目標シート及び学校評価書に「働き方改革」欄を設定</p>	実施日数	2日間	3日間	4日間	5日間	小学校	2校	13校	1校	70校	中学校	2校	7校	0校	34校	計	4校	20校	1校	104校
実施日数	2日間	3日間	4日間	5日間																	
小学校	2校	13校	1校	70校																	
中学校	2校	7校	0校	34校																	
計	4校	20校	1校	104校																	
<p>方向性4 推進協力校の指定による研究</p> <ul style="list-style-type: none"> 静岡市教育委員会働き方改革プランの推進 負担軽減可能な業務の洗い出し (H30) 改善計画の試行・実施・効果検証 (H31) 全校で取り組める業務改善の実施 (H32～) 	<p>○推進協力校による働き方改革プランの研究推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 西奈小学校・・・働きやすい職場 (環境) づくり 事務事業の軽減と時間外勤務の縮減の研究 清水第四中学校・・・ワークライフバランスの意識向上 教職員の意識改革と出退勤の管理の研究 <p>○「学校における働き方改革プラン推進委員会」の実施 ・平成32年度より全校で取り組むべき、業務改善実施の方向性を検討</p>																				

2 今年度の取組から見てきた成果○及び課題●と次年度以降の取組

【成果と課題】

○校務事務処理の作業効率が上がり、負担が減少

- アンケート、メールの簡易化、
- 会議、打合せ、情報共有のペーパーレス化

●若手の教職員の活用スキルと教員間格差

●システム内のフォルダー整理と閲覧制限による不便さ

活用推進のための支援の実施

- 新学習指導要領全面実施に向け、諸様式の検討
- 教職員の声から効果・課題を把握し、対応を実施
- ICT支援員によるサポート研修会の開催
- 書類の管理や伝達等の運用方法の改善



生み出された時間の活用方法

- 授業準備・生徒指導
- 丁寧な進路指導
- 保健室来室対応 等

【成果と課題】

●外部顧問が配置された顧問教員の年度比較 (4～11月)
「土・日・祝日に4時間以上勤務した回数等 (17部活)」

年度	2017年度	2018年度	1人当たり
指導回数	610回	449回	約9回減
特別手当支給状況	1,852千円	1,543千円	約18千円減

●外部顧問に指導を完全に委ねること

約26.4%減

外部顧問配置の拡充

- 地域社会と協力して部活動を充実していく更なる方策の検討が必要
- 静岡市立中学校部活動ガイドラインの全面実施 (2019年8月)
- 静岡市立中学校部活動在り方協議会で、時間内に指導できる効率的・効果的な指導方法を協議



部活動外部顧問による指導の様子

【成果と課題】

○日直を置かなくてもよい日の年次有給休暇取得促進

●教頭の繁忙状態により、教職員への指導時間が不足

「教頭をサポートするスタッフ」の配置の検討 (新規)

※自校の教職員への助言や専門的に指導する時間を増やし、授業や生徒指導力の向上が期待できる。(教育の質の向上)

日直を置かなくてもよい期間の実施と拡大

- 夏休みに加えて、冬期休業期間にも実施
- 時間外電話対応の環境整備 (保護者用通知マニュアル等)

※教職員の見聞を広げる機会を生み出し、幅広い知識を子どもたちに還元する。

一日当たりの学内勤務時間 (時間)

副校長 教頭	12:12	副校長 教頭	12:06
教諭	11:15	教諭	11:32

小学校 中学校

【成果と課題】

○効果があると思われる取組 (校長会アンケートより)

- (小学校) 教育課程の見直し (午前中5時間制、高学年の教科担任制)
- (中学校) 部活動ガイドライン推進、保護者・地域との連携推進

●研究推進校の取組から、若手教職員に見られる長時間勤務の実態

「推進委員会」の実施と推進協力校による事例提供準備

教育を効果より一層高めるために、「働き方改革プラン」の実施により、全校で取り組むことができる事例を提供するための検討を行う。



郷土を舞台に探求的学習(しずおか学)

学校における働き方改革を着実に進め、教員の長時間労働を是正し、子どもたちと向き合い一人ひとりの成長のきっかけを見つける時間を創出することで、働き方改革プランの目的「教育の質を高め、児童生徒の資質・能力の向上を図る」を実現する。